

## ＜フィリピン事業＞「子どもの家の子から、路上子どもへのメッセージ」



ICAN フィリピン事務所  
Edgar Gulla  
～プロフィール～  
フィリピンの他 NGO で  
路上の子どものデイク  
ア施設担当を経て、2016  
年9月より現職。

アイキャンの路上の子どもたちとの活動の1つに、かつて路上で過ごした青少年が、現在も路上で過ごす子どもたちへ、自身の境遇や現在の生活について語りかけるピア教育 (Peer education) があります。ピアとは、同等の立場や境遇を経験した人を意味します。1月には、かつて路上で生活していた「子どもの家」の4名の子どもたちが、初めてピア教育の先生役を担いマニラ首都圏の3ヶ所をまわり、計102名の路上の子どもたちへ、「教育の重要性」をテーマに自身の境遇を語りかけました。

路上で生活し毎日の空腹や差別・暴力などを経験したような、同じ立場や境遇にあった仲間から話を聞くピア教育には、聞き手・話し手の双方にとって大きな効果があります。聞き手である路上の子どもたちにとっては、犯罪などに手を染めずに正しい道を学び、路上から抜け出す必要性を自身で気づくことに繋がります。話し手である子どもの家の子にとっては、自身の過去のつらい経験を乗り越えたことを共有することで、自己肯定感を高め自信を得ることができます。子どもの家のマーク君 (仮名) 15歳は、「僕も昔は路上で生活していて、シンナーやタバコを吸うなど悪いことをしていた。でも将来なりたい夢があったから、教育を受けたいとずっと思っていた。お金がないのは大変なことだけど、それを理由とはせずに、周りの大人に助けを求めてみんなにも教育を受けてほしい」と、自身の境遇と共に路上の子どもたちへのメッセージを語りました。

子どもの家の子どもたちにとって、過去のつらい経験を人前で話すことは簡単なことではありません。特に、子どもの家に入所したばかりの子は、路上で生活していたときに向けられた差別・暴力や、家族や兄弟と離ればなれになり身寄りがなくなったことを思い出し、悲しんで泣いてしまうことも多々あります。しかし、子どもの家で寮父母やカウンセラーとの生活や、自身の経験を人前で話す能力開発訓練の成果を通じて、自分よりも年少の路上の子どもたちを鼓舞し、気づきを与えられる存在となりました。ピア教育に参加し、話を聞いた路上の子どもからは「僕は将来教師になって、僕のような勉強していない子どもを助けてあげたい。だから、学校で勉強したい」という前向きな感想も聞かれました。

幼少期を路上で過ごした子どもたちにとって、路上での生活から抜け出すことは簡単なことではありません。路上では毎日決まった生活リズムがないため、学校や施設の生活や規則に順応することが難しく、機会を得ても途中で逃げ出し路上へ戻ってしまう子もいます。路上の子どもたちと「ともに」活動をするアイキャンでは、1人ひとりの子どもたちに寄り添い、危険が常に伴う路上での生活から抜け出す必要性を、子どもたち自身で気づき将来を建設的に考えることができるよう、これからも活動を継続していきます。



## ジブチ事業

1月23日/アリアデ難民キャンプ (ジブチ)

### 「子ども議会」に25名の難民の子どもたちが参加



子ども自身が司会進行を務め、自身の在り方などを考える「子ども議会」に、アリアデ難民キャンプの子どもたち25名が参加しました。今回のテーマである「コミュニティへの参加」について、子どもたち自身で考え、話し合いを深めました。

参加者からは「私自身の声に耳を傾けてもらえるように、私も他の人の話や意見に耳を傾けたい」などの感想が聞かれました。

## イエメン事業

1月/タイズ州 (イエメン)

### 紛争地の2,180世帯へ食糧提供を提供



紛争や新型コロナウイルスの影響で、食糧危機に陥っているイエメン・タイズ州の2,180世帯へ、1月23～31日の9日間にかけて、米や小麦などの食糧パッケージを提供しました。食糧を受け取った住民からは「食糧提供は私の家族にとっ

て家計の支えとなっています」「紛争により職を失ったが、家族の食事を確保することができた」などの声が聞かれました。

## 能力強化事業 (NGO 相談員)

1月22日/名古屋 (日本)

### 「国際協力の仕事」に関する講演を実施



名古屋市立城山中学校の2年生を対象に、総合的な学習の時間に「国際協力の仕事」に関する講演会を実施しました。新型コロナウイルス対策を考慮し、オンラインで2度に分かれ、約50名が参加しました。講演を聞いた生徒からは、「自分たち中学生にもできることがあることが分かったので、積極的に活動していきたい」と前向きな感想が聞かれました。

## 国内事業 (長野・自然災害)

1月/長野 (日本)

### 福祉事業所による写真洗浄活動が開始しました



長野県社会福祉協議会の協力のもと、同県の福祉事業所と連携した新たな形で、令和元年台風19号の被害にあった被災写真の洗浄作業が開始しました。12月に研修を終え、写真洗浄を開始した作業所からは「被災した地域に何かお手伝いしたいと思っていた」「初めてのことで難しいが、人のためになっているからやりがいがある」などの声が聞かれました。

ち中学生にもできることがあることが分かったので、積極的に活動していきたい」と前向きな感想が聞かれました。

たいと思っていた」「初めてのことで難しいが、人のためになっているからやりがいがある」などの声が聞かれました。